

生きる を輝かす！

HAPPY ART PROJECT

by Masako Takahashi, Hospital Artist

-重度心身障がいの人々と創作の日々-

喜びに輝く人間の笑顔は、最強のバリアフリーだ。



天使のようにやわらかい人もいれば
頑なで気難しい人もいる。
好奇心旺盛な人もいれば
無関心な人もいる。
天真爛漫な人もいれば
じっと観察眼を向ける人もいる。

それはどこにもありがちな人間社会の縮図なれど
濃縮したようにもっとぐっと顕著で癖が強い。
強烈な個性人たちがそこにいた。

だけどあけっぴろげで裏がなく
ストレートだから気持ちが良い。
こちらも生まれたてのような心で飾りなくつき合い
おなかの底から屈託なく笑い合える。

何を考え、感じているのか？
謎多き不思議の世界の人々は、
知りたい気持ちを募らせる、
なんとも味のある存在である。



たとえば、
言葉を発するところが
できずとも
体中で感動や怒りを
表現することができぬ。



**かすかに表れる
その心の動きを
一心に感じ取ろうと
いつも、耳を澄ませ、
瞳の奥をじっと覗く。**

**たとえば、
神経や頭脳に
予期せぬ変化が
起こったとしても
囚われていたものから
心が開放される
かもしれない。**





たとえば、
一歩も外に出られないとしても
心は大翼を広げ、
天空を飛び回っている
かもしれない。

たとえば、
たが動かなくなつて
足が動かなくなつて
しまつたとしても
手で力強く大地をつかみ、
腕で移動することができる。



色とりどりの色彩に大きく見開いた瞳





戸惑いのあとにやわらぎ、そしてうっとり



マヒした指に満身の力をこめて色を落とし笑顔が爆発する





自分の手が動いて、ぽつんと涙





不安そうな表情にほんのり紅がさす



たとえ、眠っているように、何の反応が無くとも、何を聴き、気配を感じ、何かを考え、感じているかもしれない。

**たとえば、
手が、腕が使えなくとも
足でリズムを刻み、
絵を描くこともできる。**





たとえば、
体も四肢も微動だにせずとも
その瞳に喜びや悲しみの色を
表現することができると。

たとえば、
その瞳は何も映さない
暗闇だったとしても
手探りで静かに愛を
伝えることができる。





たとえば、
その耳は何も
聞くことができずとも
使える指だけを動かして
何がほしいか
訴えることができれば。



ひとりひとりの息づかいが聞こえますか？
みんな確かに生きています。

彼らは私たちです。
いかなる病や障がいとも紙一重の
私たちがいます。

ひとりひとりの心の色が見えますか？
みんな確かに感じています。

彼らは私たちです。
この地球上に、同時代に生まれ、生きている
いとおしい同胞です。

それぞれの心や笑顔が開く瞬間に立ち会うとき
言葉では言い表せない感動に心がふるえる。
ああ、生きていて良かった!と心の底から幸せを感じる瞬間。
この無上の贈り物に深く感謝したい。

“生きる”を輝かせていこう。
重度心身障がいといわれる人々の“生きる”を。
そして私たちの“生きる”を。

Masako Takahashi,
Hospital Artist

Happy Art Project

Happy Art Projectは重度心身障がいの人々のもとへ、
アートを通じた自己表現とコミュニケーションの時間をはこぶプロジェクト。
本展で紹介する写真は、国立病院機構三重病院、国立病院機構福島病院、
国立病院機構宮城病院、東京小児療育病院で撮影されました。

2018/9/26 国立病院機構三重病院
2018/10/15 国立病院機構福島病院
2018/11/6-7 国立病院機構宮城病院
2019/1/21・1/23 東京小児療育病院

“生きる”を輝かす!
HAPPY ART PROJECT
～ 重度心身障がいの人々と創作の日々～

2019年3月5日(火)～3月11日(月) 東京シティアイ (東京)
2019年3月14日(木)～3月17日(日) ワンダーアートスタジオ(仙台)
2019年3月24日(日)～3月25日(月) かがやきプラザ (東京)

企画:高橋雅子
主催:Wonder Art Production
助成:平成30年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
後援:厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会、
日本重症心身障害学会
【東京展】東京都、千代田区、千代田区教育委員会
【仙台展】仙台市、仙台市教育委員会
協力:国立病院機構宮城病院、国立病院機構福島病院、国立病院機構三重病院、
東京小児療育病院

【配る展覧会】
言葉:高橋雅子
編集:鈴木唯 Wonder Art Production
デザイン:スズキユタカ、Saori Nakada(Studio029)
写真撮影:朔丸、小倉章史、Wonder Art Production
印刷:オフセット 岩村
発行:Wonder Art Production
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-16-5 ミヤマビル5F
©Wonder Art Production

企画・主催・ナビゲーター/高橋雅子/ホスピタルアーティスト
医師である祖父や親戚の仕事を見ながら育つ。アートを学ぶためアメリカへ渡り、米国立Western Michigan University芸術学部卒。アメリカ現代美術のギャラリーを経て、美術館Petit Museeのシニアキュレーターに。美術展覧会の企画やワークショップ、美術館運営に携る。1999年にWonder Art Production設立。独立後、初めて企画した展覧会は『アート・イン・パラダイス』。既成の材料や技法にとらわれず「パラダイス」のような表現世界で生きる、アメリカの独学アーティスト38人の人間味溢れる作品を紹介した。その後、アフリカやアマゾン、ポーランドなど、世界のアートを紹介する展覧会を企画。子どもの美術教育普及プログラムに携わる。
1999年の独立当初から、アートによる療養環境の改革を目指す「ホスピタルアート」の取り組みをはじめ、全国の病院でアートプロジェクトを展開。法政大学でのホスピタルアート講義、医学書院『病院』での連載ほか、医療現場におけるアートの可能性を各所で発表。これまでの実施先病院は100病院を超え、長野県立子ども病院ではICU病棟のホスピタルアートの総合プロデュースを手掛けた。代表的プロジェクトである「Happy Doll Project」で「2013年度子どもたちのこころを育む活動優秀賞」受賞(公益財団法人パナソニック教育財団)。東日本大震災直後は緊急支援チームを立ち上げ、避難所や仮設住宅、子どもの施設への訪問を開始。岩手・宮城・福島・熊本で1000日を越える活動を記録。2016年、中学・高校時代を過ごした仙台を拠点にボーダレスなアートスタジオ『ワンダーアートスタジオ』をオープン。病院や障がい児者施設、被災地など、命と心に関わる現場で生きる力につながるアート活動に一貫して力を注ぐ。
<https://www.masakotakahashi.website/>



<https://www.happyartproject.website>